

令和8年4月 市長定例記者会見

2026年4月1日(水)

午後1時30分 開始

【広報広聴課長】 それでは定刻となりましたので、ただいまから市長定例記者会見を始めさせていただきます。

初めに、市長よりご挨拶申し上げます。

【市長】 こんにちは。

今日から新年度が始まったということですがけれども、新年度も皆さん、どうぞよろしくお願いいたします。

4月1日ということで、組織改正を行いまして今日がスタートの日ということになります。中身で言いますと、この前、記者会見のときにも申し上げさせていただいたんですが、公民館のコミュニティセンター化、それから情報管理部門と行政DX部門の統合など、地域のコミュニティの活性化、それからデジタル政策分野の強化をはじめとして、我々、総合計画を持って、今、施策いろいろ進めていますけれども、その総合計画を推進していくための効率的、効果的な執行体制の整備を行ったというところです。新たな体制の下、しっかりと着実に市政を進めていきたいと思っています。

あと、最近のトピックスですがけれども、先月、おかげさまで北陸新幹線敦賀開業2周年を迎えました。3月14日、15日には、開業2周年記念としてつるが街波祭が開催されました。多くの観光客の皆様、それから市民の皆様、お越しいただいて盛り上げていただいたと思っています。関係の皆さん、ご尽力いただいた方々、それからご来場いただいた方々に、心から感謝を申し上げたいと思います。

やっぱりこういうイベントのとき以外でも、開業前に比べて、ビフォーアフターの言え、もう皆さんも感じていらっしゃると思いますけれども、本当に人が増えた、にぎやかになったなと思いますし、そういうイベントも含めて活気が出てきたなとすごく思っています。今のこうした雰囲気、こういう実績というのを大事にして、これをベースにして、新しいまちの将来像を描いていけたらなと思っています。

引き続き皆様のほうにも、報道も含めて、ご支援とご協力をお願いしたいと思っています。

私から冒頭以上です。

【広報広聴課長】 それでは続きまして、事業発表に移ります。

敦賀市立児童文化センター（こどもの国）リニューアルオープン記念式典の開催についてお願いいたします。

【市長】 これも皆さんご承知かと思えますけれども、こどもの国です。敦賀市立児童文化センターですが、リニューアルを現在行っているところです。これは、令和4年度からずっと着手をしております、屋内リニューアル事業ということで、昨年度に実施した館内工事をもって完了したということです。これによりまして、ここに少し絵がありますけれども、全天候型のこども向け遊戯施設としてリニューアルオープンするということになります。

今回のリニューアルのコンセプトは、「敦賀を感じられるあそびとまなびの空間づくり」ということで、エントランス、それからネイチャールーム、そしてプラネタリウムの前室の3つのエリアを中心に改修を行っています。

資料に一つ一つ書いてありますけれども、こういったエリアで、こどもたちが安心して遊んで、また好奇心も育んでもらって、様々な体験を通じて遊びながら成長できる、そういった場を整備したということで、今度はこども本人、それから親御さんにとっても子育て環境の充実につながるものと期待をしています。

リニューアルオープンの日時は、令和8年4月15日水曜日11時半からです。また、この記念式典をそれに先立ち、同日の10時30分から11時30分の間で記念式典を開催する予定をしています。

私から事業発表としては以上です。

【広報広聴課長】 それでは、ただいま発表いたしました項目につきまして質問をお受けいたします。

最初に幹事社さんからお願いいたします。

【記者】 こどもの国のリニューアルですが、コンセプトが「敦賀を感じられるあそびとまなびの空間づくり」というところで、特にこの辺りが売りのポイントというか、まさにそういったコンセプトも表れているような思い入れのある部分や推しのポイントなどあれば教えてください。

【市長】 室内にありながら敦賀の自然を感じられるというところがありまして、こちらを見ていただくと分かりますけれども、シンボルツリーがあるなど、敦賀の自然を感じさせるような屋内施設になっています。遊びの装備としてもそうですが、実際に海水と淡水、2種類の水槽が置かれているということで、実際生き物もいます。冬場や、それから

夏も暑くて外に出にくい、その中でも敦賀の自然を感じられるということで、そういう刺激も受けて、季節のいいときには外で実際に体験してほしいと思っています。

【記者】 あと1点だけ。たしか、こどもの国の外の遊び場の整備も今年度予定されていると記憶していますが、その辺りも含めて全体が完成するのっていつになるかというところを最後教えていただければ。

【市長】 今年度たしか、構想、計画となっていて、それをもって来年度以降、実際の工事に入ることになるかと思っています。

【広報広聴課長】 次に、各社より質問をお受けしたいと思います。何かご質問ございませんでしょうか。

それでは次に、フリーの質問対応に移りたいと思います。

最初に幹事社さんからお願いいたします。

【記者】 改めてになりますが、今日から新年度ということで、新年度を迎えるに当たっての意気込みと、どのような年度にしたいか抱負をいただければと思います。

【市長】 3月のときの記者会見でも、それから3月の議会でも、同じように新年度に向かってということの質問を受けたんですけども、そのときにもお答えしたんですが、今、私たち総合計画というのが好循環のモデルということでやっています。そこは市役所内では共通した認識でやっているんですけども、それがサイクルとしてうまく回り始めたなという今実感を持っています。これをぐるぐると回していきたいなと、加速させていきたいなと、そういう1年になればと思っていますし、あと私にとっては今年が4年目ということで、市長の任期というのは、4年ですので、それを一つの単位というふうに考えると、最終の年ということになりますので、しっかりと実績を意識しながらやっていきたいなと、そういう1年にしたいなと思っています。

【記者】 私からもう1点、市政のことではないんですが、全原協の会長として、最終処分場の文献調査の話で、今朝も報道にもありましたが、小笠原村の南鳥島において文献調査の申し入れを国のほうから行うという、これまでにない形での進め方というのがこの1か月前ぐらいですか、ありました。このことについての受け止め等あればお願いいたします。

【市長】 今まで、やっぱり最終処分場に関しては、国民全体で議論してほしいということとずっと全原協の会長としても申し上げてきましたし、もう一つ、やっぱり国がもうちょっと積極的に主導してやっていただきたいという話も、これまでもこの場でもしてきた

と思います。今回、そういう意味で言うと、国が主導して一つそういう候補地を挙げてきたと、文献調査を申し入れたということについては、我々の思いというのがひとつ国のほうでもしっかりと受け止めていただいた結果かなと思っています。

実際には、これから、13日ですか、村長さんがそういう表明をされるということ、判断表明をされると今日のニュースでも流れていますけれども、国が主導と言いながら、やはり実際の自治体の意向というのは非常に大切なものですので、これからしっかりコミュニケーションを取ってやっていただきたいなと思っています。

【広報広聴課長】 次に、各社よりご質問をお受けいたします。

【記者】 今挙げた質問に関連してなんですけれども、市長もずっとそういうようなお考えを示されていましたし、自治体の意向も大切、コミュニケーションも重要ということでおっしゃっているところですが、やっぱり指名をされてしまうと、断ると悪者になってしまうというところで非常に大きな負担をかけてしまうと。

私、個人的に過去で見てきた例で、福島の間蔵施設、除染土の間蔵施設です。大熊、双葉は、指名される形で、引き受けざるを得ないというところに追い込まれて、やっぱりその後、双葉の伊澤町長なんかは、やっぱりあのときの私たちの決断って全然尊重されてないというようなことをおっしゃっていたり、やはり指名するやり方というのは、私はちょっとあまりいいものとは思えないんです。

その中で、実際の意向はどうでもいいということじゃないということはおっしゃっているとおりのので、そう思っているとは思ってないんですけれども、やっぱりこれ、悪者をつくってしまう制度なので、非常に考えなきゃいけない、慎重にならなきゃいけない部分もあると思いますが、そうそういった側面から、市長、どういうふうにお考えになるか教えてください。

【市長】 おっしゃることも非常によく分かるので、私もさっき申し上げたとおり、立地自治体の意向が大事だということと、それからしっかりコミュニケーションを取ってほしいということを申し上げた。それはもう本当に一緒ですけれども。今、手挙げ方式というのをずっとこれまでやってきて、実際手を挙げたところも、すごく厳しい議論の中に巻き込まれるということがありました。手挙げ方式であったとしても、悪者とは言わないですけれども、厳しい立場に立たされてきた現状ということも考えると、今のこの国のほうで、私、指名という言い方は、国は多分、指名と言われると違うよと言われるとは思いますが、国のほうで文献調査を申し入れるというやり方は、私は一つのやり方ではないか

など。そのやり方を採るのであれば、先ほど申し上げたように、やはり自治体であったり、あるいはもちろん自治体というのは、それは住民の意見を反映するということにもなりますし、そこから先、国としっかりとコミュニケーションを取ってほしいって言ったのは、正にそういうところかなと思います。

手挙げ方式であっても、国がこういう形で文献調査を申し入れるという形であっても、厳しい議論になりがちだということについては変わらないので、そこについては国も理解活動も含めて、そもそもそういうことにならない冷静な議論ができるような環境づくりというのをしてほしいな。1年や2年でできることじゃないかもしれませんが、そうした地道な活動も含めてやってほしいなと思っています。

【記者】 おっしゃるとおり、手挙げ方式でもそういうので、二分するようなことになってというところはやっぱりどこでも同じなので、そこは多分変わらないと思うんですけども、一方で手挙げ方式で悪者できたという、それは首長さんが町民や市民から見てというようなことでしかなくて、やっぱり全国から見て悪者になってしまうというのは全然重みが違うので、そういったところで言うとうどうなのかと。

市長おっしゃっているところ、私も実はそれ感じているんですけども、国が悪者になるということの重要性というのも実はあるというのは、私もそれは分かっているんですけども、そういったところも含めて。

【市長】 今ほどお話聞いて思ったのが、そもそも悪者、手を挙げるにしろ、それから国から文献調査を申し入れるにしろ、その自治体が、あるいはそこで誘致した人たちが悪者って言われる、これがよくない。今、〇〇さん（記者）がそうやって悪者と言っているわけじゃなくて、そうやって言われてしまうような雰囲気というのはよくないということなのかなという、究極。そういうことなんじゃないかなと今、お話を聞いて思っています。

多分、今、我々が思っているのは、どんなやり方したって悪者できてしまうのではないかと話が多分あると思います。ですので、それで言うと、先ほど私が申し上げたとおり、もうちょっと冷静な議論ができるような環境というのを国もつくっていく必要があるだろうなど。

この最終処分の話は、本当に、もう何十年も前からあるので、その環境がもうできてなければおかしいですけども、それを今、その環境づくりをしなきゃいけないんだという話をしていること自体に、私としてはちょっとじくじたるものがありますが、そうは言っても今からでも遅くはないので、そういうことは理解活動も含めて求めていかなきゃいけ

ないというか、私たちもずっと求めてきてはいるんですが、まだそうなってはいないよねというのが多分今の議論だと思いますので、そういうことも今改めて痛切に感じたというところでは。

しっかりと、我々も含めてそういう環境づくりというのはしていきたいと思います。

【記者】 別件ですけれども、30日にハラスメント事案の処分がありましたけれども、絶対にないほうがいいことは確かですが、一方で私取材していた中で、相談を受けた所属長がその日のうちに連絡をしていたということで、再発防止の姿勢というんですか、やっぱり意識というのは少しできつつあるのかなということも感じたところで、ちょっと手応えを語るというのは難しい事案ではあるんですが、その辺の流れに関して、ハラスメントの事案ではなく、そっちの対応のフローについて。

【市長】 対応のフローはある意味機能しましたということかと思えますし、そこですぐ通報みたいな形を取ったということも、これも一つ、そういうことが当たり前になってきたなというのは思います。というところではけれども、今日も部長が集まる庁議をやりました。私もそこで申し上げましたが、「このフローが機能したことがよかったね」では絶対なくて、「このフローを機能させなくてもいいような職場環境をつくっていくということが根本的に一番大事なことだよね」ということは、庁議の場で申し上げさせていただきました。それは私たち一番大事なこととしてこれからもやっていく。やっていくんだけど、こういうことはこうやって起きてしまうこともあるんですよね。そのときは、このフローをしっかりと回してやっていくことになるんだろうな。

このフローについても、まだ私たち改善の余地はあるかなと思っているところがあるので、その仕組みというところもしっかりと改善もしていきたいなと思っていますということです。

【記者】 それから昨日、年度末に中村副知事が退任という形を取られましたけれども、ちょっとハラスメントであったり、選挙のときの振る舞いだったり問題視されている中での退場ということになってちょっと複雑ではあるんですけれども、このタイミングの退場について、やっぱり杉本前知事を思い起こさせるような退場の仕方だったのでちょっとそこがどうなのかなというのは思いますが、この退場の仕方についてということと、あと中村副知事とお仕事もずっとされてきたと思うので、在職中の思い出というか、中村副知事の在職中のことについて、ご所感をお願いします。

【市長】 今回、3月31日、この年度の区切りで辞職をされた、辞任をされたということ

については、知事、それから副知事の御判断かなということで、その判断されたことについて、私からとやかく言うことは控えたいとは思いますが。

一緒に仕事をさせていただいたという意味では、この3年間、本当に副知事には敦賀には足しげく通っていただきまして、実際まちを見ながらいろんなことを相談させていただいた、敦賀の人ともいろんな交流もさせていただいたという意味では、残念に思う気持ちもあります。

【広報広聴課長】 ほかがございますでしょうか。

【記者】 3月14日、15日に街波祭がありましたけれども、今回で3回目というところですが、改めて見られた感想とございますか、盛り上がりについて、ご感想や思ったことあれば教えていただきたいです。

【市長】 街波祭というのは、1回目から市が主導してやるというよりは、やりたい人がこのイベント、このつるが街波祭という枠の中で本当にやりたいことをやってもらっているという感じがあって、私はいい雰囲気イベントだなと思っています。それが今回も続いて、あちこちで皆さん自分のやりたいことをやっていただいて、それをつるが街波祭というくくりでやると、来場者の方も街波祭に行こうという形で来ていただけますので、3回目ですけれども本当に雰囲気のいい祭りで盛り上がってよかったなと思っています。

そうした性格の祭りイベントなので、これからどういうふうに続けていくのか、どうなるのかというのはちょっと分からないところもあるんですけども、つるが街波祭ということにこだわらず、ああいう形で自主的に参加する、自発的に参加する、自分のやりたいことをその中でやっていくという人が敦賀の中で増えていくというのはすごくいいことだなと、イベントを通じて、もう1回目から思っていることですが、今回も同じように思って、頼もしく感じたというところです。

【記者】 今回の街波祭だと、神楽通りの拡幅工事が終わりました、市街地のハード整備というところはかなり進んだというところだと思いますけれども、今後、何か市のまちづくりに対する関与みたいところというのはどういったところを考えられているのかというのを教えてください。

【市長】 まちづくり、ハード面という形でいうと、例えば氣比の杜構想であったり、あるいは金ヶ崎の既に始まっている公園整備であったり、廃線敷のところの整備であったり、そういうところがもう具体的にはあります。具体的といっても構想ですけども、そういうことは議論がもう始まってはいるんですけども、そういうことはやれるところをやっ

ていきたいなど。

一方で、今、ハード整備でというお話がありましたが、ハードを整備することは目的ではなくて、今回の2車線化、歩道の拡幅についても、そこに人が歩いてもらおうと、ちょっと言い方変えると氣比神宮には今多くの人に来て参拝客が増えていますけれども、そうした参拝客の方の動線を変える、人の流れを変えるという意味で、それだけたくさん人が来ているんだったら、ぜひぜひ通りを歩いて、鳥居をくぐって入ってもらって、鳥居をくぐって、また敦賀のまちを歩きながら帰っていただくというような形を取れないかなという中でのハード整備だと思っていますので、敦賀市がこれからやれることないですかと言われるたら、そういう姿を実現していくというのが我々のやれることかなと思っています。

【記者】 先ほど動線を変えるという言葉もありましたけれども、動線というところで、神楽のほうは今回の街波祭では結構盛り上がったと思うんですけども、一方で、最初の街波祭でメインだった駅前の方はちょっと盛り上がりには欠けたのかなという印象を受けたんですけども、そこら辺の市街地全体を盛り上げていくって考えたときに、どういったことが全体の盛り上がりに必要なのかなというところをどう考えているか教えてください。

【市長】 第1回のときは、本当に、むしろ駅前中心に盛り上がったところはあるんですけども、やはり第1回というのは新幹線開業のときに合わせてやっているというのは結構大きく、そのため駅前の方は盛り上がったというのがあると思うんですね。

今回は神楽のリニューアルということで神楽通りがメインで盛り上がったということはあると思うんですけども、一つは、それぞれの商店街さんなどでいろんな企画というのは考えていただいて、自分たちでどう自分たちの商店街を盛り上げていくのかということを考えていただくというのが大事なかなと思います。

今、タイミングで、2年前は駅前が盛り上がり、今回は神楽が盛り上がったということはありませんけれども、そうやってイベントというか、例えば新幹線開業で駅とか、神楽のリニューアルでとか、そういうことがそうそうあるわけでもないで、これからはそれぞれの商店街で考えていくということも必要なかなと思います。

我々は、やはり街波祭というのを全体で見ることができる立場でもあると思いますので、そこは市ともいろいろ相談していただければいいのかなと思いますし、あと各商店街さんも、今エリアビジョンとかそういう取組もされていますので、どこかでまた自分たちが主人公的にこういうイベントをやっていくということもタイミングとしてはあるのかなと思

っています。

【記者】 あと、先日、自転車のサイクルルートの件について、県の標識の部分が少ないということで、てっきり何か指定されるのかなと思っていたんですけども、指定されずということでありましたけれども、米澤市長としてどういった受け止めなのかということをお伺いしたいんですけども。

【市長】 残念ではありましたが、課題ははっきりしていますし、聞いている感じでは、例えば3年ごとの指定のサイクルみたいなことを言われるんですけども、今回の場合は3年サイクルではなくて、課題解決をすればまたという。新聞に載っている言い方は忘れましたが、また審査に入るといった言い方なのかなと、そのように新聞でも書いてあったと思いますので、課題をしっかりと解決していただいて、我々でできる部分もあるかもしれないけれども、課題を解決して、ナショナルサイクルルートに晴れて指定されるといいなと思っています。

【広報広聴課長】 ほかがございますでしょうか。

【記者】 話が全く替わるんですけども、中東情勢がかなり長引いていますけれども、結構、県内、国内でも重油であったり、軽油の調達が難しいというような話も聞いたりもしまして、例えばですけども、例えば市内ですと温浴施設の重油であったりとか、あと軽油ですとコミュニティバスって軽油なんですかね。そういった市民生活とか、観光施設とか、そういったところの影響って今の時点で何か把握されていることってありますでしょうか。

【市長】 今のところ具体的には聞いてないですね。ただ、これから出てくる可能性はあると思います。

例えば数年前、1、2年前にもガソリンが高騰して問題になったときがあって、それについては、国のほうだったり、あるいは県、それから市もいろんな支援というのを、困っている業界分野に対してしたという経緯はありますので、今後のそういう原油、重油、ガソリン、軽油の価格の動向だったりとかを見ながら、またそういったことも可能性としては考えなきゃいけないのかなと、そういう可能性もあるかなと思っています。

【記者】 先ほども質問少しありましたけれども、県の中村副知事、退任されたということで、先ほどの質問と重複する部分ありますけれども、また新たな副知事も選任はされるんだと思いますけれども、前任の知事、杉本知事含め中村副知事、敦賀市さんと一緒にやってきたプロジェクトあるかと思うんですけども、退任によるプロジェクトの進捗とか、

そういったところへの影響といたしますか、懸念といたしますか、そういったところはいかがでしょうか。

【市長】 3月の県議会、ネットでの中継とか私も見たりはしてはいましたけれども、そのときに県の理事者側が言われていたのは、スタッフ的には、あのときも私たちの後ろにいるメンバーはすごくいいメンバーなのでどういう体制であってもやっていけるといいますと言われておりましたので、恐らく新しい体制になっても県政においては、我々との関係も含めて、遅滞なく進めていただけるものと思っていますし、そうなってほしいなと思っています。

【広報広聴課長】 ほかがございますでしょうか。

【記者】 イスラエル関連で2点伺いたいですけれども、まず一つ、駐日イスラエル大使、敦賀市を訪れられたと思います。市長お会いされて、どんなお話しされたのかとか、ちょっと最初伺ってもよろしいですか。

【市長】 国際情勢について、突っ込んだ話というのは特にしていませんね。どちらかというと、今のムゼウムの施設の在り方の話であったり、そうしたことの話がメインだったように思います。

【記者】 もう一つ、これもちょっとイスラエルに関係するかと思うんですけれども、一部最近報道で杉原千畝さんをめぐる講演会とかが取りやめるという動きが出てきていると。これについて、市長、どのように受け止められているかというか。

【市長】 早稲田大学の話ですよ。何ていうんですかね、杉原千畝の果たした功績とイスラエルの今回の中東情勢の話というのは、本来分けて考えないといけないなと思いますね。

あれで、杉原千畝の事績について知る機会を一つなくしてしまうということこそが、本当に人道とかいうことを考える、あるいはひいては世界平和を考えることにとってはマイナスじゃないかなと思います。

【広報広聴課長】 ほかがございますでしょうか。

【記者】 少しお話戻りまして、ハラスメントのことについてなんですけれども、今、敦賀市さんとしてはハラスメントのない職場づくりを進める中で、結果的にまた起きてしまったということについての、改めてその原因ですとか、その背景、またどうして起きてしまったのか。足りない部分というのを改めてお考えをお聞きしてもよろしいですか。

【市長】 起きてしまったことについては、本当にもう残念で、悔しい思いもあるという

ことです。それは、私たちの目指す方向というのは明確に打ち出していたつもりだったので、それについては本当に残念な思いです。

何が足りなかったのかということというのは、正直、まだ私の中でもこれだと言えるものはないんですけれども。やっぱり一人一人の意識の問題であったり、人のせいにするということでもないんですけれども、意識の改革というか、それは当たり前のことなんだけれどもなと思うんですけれども、その当たり前のことをしっかりとやっていく、あるいはこういうことはやってはいけないということをしかりと認識していくということは、我々の教育研修ですね、そういうことも含めてもう地道にやっていくしかないのかなと思っています。

今回のことがあったから何か取り立てて一つ研修を増やすとかそういうことでもないのかもしれませんが、全体としてハラスメントに幾つか種類ありますけれども、そういうことが本当にない職場をつくっていくためには、我々、検討委員会、プロジェクトチームの中で上がってきた案件はしっかりとやっていきたいと思っていますし、またこういうことがあったので改めて考えていかなきゃいけないのかなというのをちょっと今回は思わされた感じですね。

かけ声だけだと言われないようにしなきゃいけないんですけれども、なかなか難しいなというのは正直思っています。

【広報広聴課長】 ほかがございますでしょうか。

それでは、以上をもちまして市長定例記者会見を終了いたします。

ありがとうございました。

【市長】 ありがとうございました。

また、今年もどうぞよろしく申し上げます。

午後 2 時 05 分終了